

雪倉岳・朝日岳縦走記録



目的地	雪倉岳・朝日岳	期 日	平成19年7月29～30日（日・月）
山人	笠原正雄・笠原澄子	特 記	蓮華温泉から鉾山道～五輪尾根の環状縦走

地名	(着)～(発)	天候	記 事
前 日 (28日)			
与 板 発	午後3:50	曇	YHCポストに届けを出して西山～能生高速。能生で夕食弁当等を買う。
ホテル糸魚川	6:50		6Fのツインルーム(¥12,020)。1Fに温泉大浴場。いい湯であった。
第1日(29日)			
ホテル糸魚川	午前3:30発	曇	平岩から蓮華温泉までは他に通行車両なし。途中で夜が明ける。
蓮華温泉駐車場	5:00	〃	満車に近く県外車が多い。パンを軽く食べて歩き出す。露営場でトイレ。
瀬 戸 川	6:10～6:15	〃	一昨年は膝までの渡渉だったが、24日に糸魚川市役所に問い合わせたところ、その日に橋を架けるとの回答だった。渡り終えて少し休む。
水 無 沢	7:05	〃	この沢道を抜けた所で、ガソリンを背負った草刈人2人に追越される。
刈倒し傾斜道	7:30	〃	カヤの刈倒しの歩きにくい道。しばらく進んで歩き易くなる。
蓮華展望台	7:55～8:10	晴	稜線を見るが人影は無かった。草がついているものの山腹の登路が部分々々分かった。残りのサンドイッチを食べる。すぐに鉾山事務所跡。
刈 払 作 業 中	8:30	〃	刈払機はデポしておいたと言う。かなり広く刈っている。この先は所々草が覆う道となる。けれども草の窪みで登路に迷うことは無い。大きな石に2006.8.8とスプレーで書いてあった。たぶん昨年の刈払い完了日と思われる。5分後、緩斜面の雪渓を渡る。
雪 渓 渡 り	9:05		2回目の雪渓渡りで念のためピッケルに持ち替える。
〃	9:15		一昨年はこの雪渓が一番急傾斜だったが、今年は2回目が一番急だった。
ストック歩行へ	9:25	〃	少し上がって、平坦路でピッケルからストックに持ち替える。
う ま い 水	9:40	〃	雪倉からの下山単独男が休んでいた。少し会話する。
鉢ノ鞍部分岐	10:40～11:10	〃	ザラ地の長い登りにかかると、右手に雪倉岳への縦走路が沢を隔てて戻るように見える。その沢を覗くがやはりT字分岐まで行かなければならない。コマクサ、ミヤマムラサキ等を撮って、腰を下ろしビール1缶、おにぎり2個。同年代の単独男に続いて同単独女が三国峠へ向かって行く。鉢ケ岳は見えるが白馬や雪倉岳方面は雲が覆っていて頂は見えない。
カップ上衣着用	11:30	霧	分岐から下ると霧の中に入り、雨が当たって来た。喬木帯路でカップ着る。
雪倉避難小屋	12:00～12:10	小雨	ガスで展望なし、風も出て来た。中に夫婦、後に若者2人。いずれも白馬岳からで、雪倉岳で戻りここに泊まるらしい。
雷鳥に会う	12:35	〃	小屋後、朝日岳からの縦走ツアー約30人とスライドする。登りの途中、脇を雷鳥が一羽飛び過ぎ登路に着地した。一時ガス越しに薄日が出た。
雪 倉 岳	12:55～1:10	霧	ガスで展望は無いが、先程と同様たまに薄日が出る。風が寒く、山頂の風下に下りて少し食べる。雨は無くなったのでカップを脱いで下り始める。コースの左右に残雪があるが、ガスでそのボリュームは分からない。

窪地で休む	2:25~2:40	曇	風を避けておにぎりを食べる。フグルを撮るが、風でうまく行かない
ツバメ岩	2:55	〃	喬木帯から明るい感じの礫岩地に出る。斜面に大きな岩がツバメ岩か。
小桜ヶ原	3:05	〃	木道となる。フグルとワカコヅクの見事な群生。コヅクは濡れて下向きだ。
水平道分岐	3:30	〃	直進の木道が水平道。右から朝日岳頂からの道が下りている。この先、数回、ベンガラでマーキングした残雪の斜面道を通る。樹林の道も混じる。
鎖場通過	4:35	〃	露岩のヘツリ道に手すり状に鎖が2本。今山行中唯一の鎖場。小屋の屋根が見えて来た。沢を渡る所でズボンの泥を洗い、顔も洗う。
朝日小屋	5:00	〃	受付を済ませた後、伴場さんと再会。女社長との2人からだど500缶ビール2本を頂いた。お返しは昨日朝に焼いたレーズンパン8個。外のテーブルで夕食を始めたが、途中で寒くなり、中の自炊場に移って食べる。自炊は我々のみだ。
就寝	7:20	〃	小屋は満員とのことで、向かいのセンター建屋の8畳を計3夫婦で利用。勝手仕事の手伝いを終えた伴場さん親子が声をかけてくれたが、うつろに返事をしてそのまま寝込んでしまった。彼女らは向かいの部屋だった。
夜中に外に出る	12:00	〃	薄くガスがかかっているものの満月で明るかった。タバコを一本吸う。
第2日(30日)			
起床	3:30頃	霧	10:50 蓮華温泉発のバスに乗ると言う1夫婦が出発準備を開始。暫くして電気が点く。未明発の隊の頭電が朝日岳へ向かっている。4時に本館に移り、朝食待ちの列の先頭に立つ。4時半過ぎから朝食。ゆっくりコーヒー。小屋の外から旭岳、白馬岳、雪倉岳が見えた。
歩き出し	6:20	小雨	伴場さんと社長に別れを告げ、カップ上下で出発。登りの途中で雨が弱くなり上衣を脱ぐ。北股からの数人が山頂から空荷で下りて来た。
朝日岳	7:15~7:20	曇	出発しようとしていた4人隊を呼び止めて記念写真を撮って貰う。山座円盤で山を見る。立山から妙高、やはり剣岳は威厳ある姿だ。
吹き上げのコル	7:55~8:05	〃	こちらへの下山は我々が最後のようで、先行する前行の4人隊が目に入るのみだ。少し食べて、カップ上衣をザックに収納。雨ズボン歩行。
五輪高原	9:35~10:25	小雨	五輪の森前後で先行下山隊数人を追越す。樹林に入ると、霧が露となって落ちて来る。高原バルコニーに上がりカップ上衣を羽織って昼食。ビール、パン、湯を沸かしホットウイスキーとコーヒー。樹林帯で追越した数隊が通過して行く。蓮華の森幕営と言う栃木からの夫婦が同席して休む。少し会話しパンとコーヒーをご馳走する。のち2人は先行する。その後、東京からと言う女性数人隊(男性1人が混じる)が上がって来て小屋弁当を広げた。4泊5日と云う贅沢山行だ。
白高地沢	11:35	曇	橋を渡る。この手前でぬれた岩に足を滑らせて、広範囲に右腕を擦りむいた。カットパン2枚を貼っても出血部を覆うことは出来なかった。朝日小屋の朝食で隣だった5:15発の高年者数十人隊を追越す。
瀬戸川鉄橋	12:30~12:40	〃	男性2人が居た。渡り終えて最後のおにぎりを1個ずつ食べる。この後、妻が先を行くが、俺一人途中でマーキングを見落とし、涸れ沢に入り込んで道迷い。戻って復帰する。5分程ロスタイム。この後、何人かを追越すが、皆がお疲れの様子であった。アヤメ平でようやく妻に追い付く。
蓮華温泉P	2:00着	〃	露営場過ぎて林道に上がり、途中の流れで靴等の泥を落とし、顔を洗う。暑さで汗をかいたわけではないので、腕のすり傷がしみるであろうこともあって、1人800円をケチって入浴はしないで帰る。

一昨年に鉾山道を歩き小蓮華山を登った。もう一度鉾山道を歩きたいと思い、昨年は今回と逆コースで入山した。しかし、2日目に雨となって五輪尾根のピストンで終わってしまった。一昨年より3週間早いためか、刈払いは完通していなかった。そして、少し時期が早かったのか、花の量、種類とも少なかった。また、前回は3つ目の雪渓渡りが急傾斜だったが、今回は2つ目が急だった。年により変わるものだと知った。

朝日小屋では、石転び沢春山合同訓練で一緒だった伴場さん親子とちょうど日程が合致して再会した。500缶ビールを差入れて貰ったお陰で翌日のランチにもビールを飲むことが出来た。

次週にYHC山行で、白馬大雪渓～白馬岳～梅池と歩いた。小蓮華山頂や雷鳥坂あたりから雪倉・朝日をながめた。また、鉾山道の登路も一部目で追うことも出来た。一方、その山行は我々も14人の団体だったが、ツアーも含めて、人・人・人でうんざりした。それに比べて、今回のコース、特に鉾山道～朝日小屋間は人が少なくて良い。下山後すぐは再び歩くことは無いだろうと思ったが、次週の混雑の山行から帰ると、何故か展望がある時にもう一度歩いてみたくなる。